

**製品名: AZ1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07393**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	

**抗原情報**

遺伝子名	OAZ1
別名	OAZ1; OAZ; Ornithine decarboxylase antizyme 1; ODC-Az
遺伝子 ID	4946.0
SwissProt ID	P54368
免疫原	抗血清はヒト OAZ1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 14-63

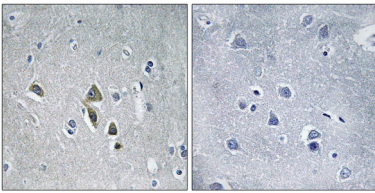
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、オルニチン脱炭酸酵素アンチザイムファミリーに属し、細胞内ポリアミン濃度を調節することで細胞の成長と増殖に関与しています。アンチザイムの発現には +1 リボソームフレームシフトが必要であり、これは高レ

ベルのポリアミンによって促進されます。アンチザイムは次に、ポリアミン生合成の鍵酵素であるオルニチン脱炭酸酵素（ODC）に結合して阻害することで、自己調節回路を完成させます。この遺伝子は、アンチザイムファミリーの最初のメンバーであるアンチザイム1をコードしており、広範な組織に分布します。アンチザイム1は、ODCに結合して分解を誘導するとともに、ポリアミンの取り込みを阻害することで、細胞内ポリアミン濃度を負に制御します。アンチザイム1のmRNAには、2つの潜在的なインフレームAUG（翻訳開始部位の重複）が含まれており、ラットを用いた研究では、2つの翻訳開始部位を交互に使用することで、N末端が異なるタンパク質アイソフォーム（代替産物）が生成されることが示唆されています。Ser-68とAsp-69のコード間でリボソームフレームシフトが起こります。自己調節機構により、細胞内ポリアミン濃度に応じてフレームシフトを調節する。機能：オルニチン脱炭酸酵素に結合して不安定化し、分解を促進する。また、ポリアミン取り込みトランスポーターを不活性化することで、細胞内ポリアミン取り込みを阻害する。類似性：ODCアンチザイムファミリーに属する。

## 研究分野

## 画像データ



OAZ1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。